

事業計画書

事業名	天来書学普及事業(第5回天来祭り・遊歩道工事・書の里マップの再版)	
実施箇所	天来自然公園、天来記念館、駒の里ふれあいセンター	
実施期間	事業開始予定年月日	平成23年6月1日
	事業終了予定年月日	平成24年3月31日
事業概要	事業区分	ソフト / ハード / ◎ソフト・ハード
	〈事業目的〉	<p>佐久市望月地区は近代書道を拓いた比田井天来生誕の地で、地区内には佐久市立天来記念館があり、天来の書を刻んだ石碑も散在している。特定非営利法人未来工房もちづきでは平成18年、比田井天来生家の裏山に天来自然公園の建設を企画し、その一步として9基の石碑を建立した。平成20年には現代書家揮毫による「筆塚」も建立した。その後、未来工房では植樹・間伐・草刈りなど山林の管理、公園の運営を担ってきた。最近では全国の書家、研究者、書愛好家がここを訪れている。</p> <p>本年は公園内を一周できる遊歩道を整備し、来園者の便宜を図り、現代書家揮毫の石碑建立に備えたい。また、5回目を迎える「天来祭り」は、5回記念としてさらに盛大に開催し、地域の誇りである天来書学を全国に発信したい。</p>
	〈事業の内容〉	<p>雑木林の中に石碑が建つ公園内に周遊できる「遊歩道」を整備し、高齢者・障害者の来訪を容易にする。</p> <p>全国の書愛好家に呼びかけて「天来祭り」を開催し、「市民参加揮毫会」「高校生による書道パフォーマンス」などを実施する。書道界を代表する書家の参加を得て指導・評価を受ける。一般市民とともに小中高生にも参加を呼びかける。天来祭り2日目には天来記念館、天来自然公園の見学会を実施する。</p>
	〈事業の効果・アピールポイント〉	<p>天来祭り参加者は、年々増えている。第1回は120名、2回は150名、3回は200名、第4回は佐久市立近代美術館の比田井天来展に合わせたこともあり、520名の参加があった。今年度も500名の参加を予定している。また、天来自然公園の年間の来園者は、平成18年700名、19年800名、20・21年各1000名、22年は1100名と増加しており、23年は1200名を予定している。</p> <p>遊歩道造成や植林など公園内整備を進め、将来は公園内全域に全国で活躍する書家の石碑を建立する予定である。(天来門流の書家の多くが、この地に自らの書の石碑建立を希望している。)</p>
〈事業における市の役割分担〉	天来祭り開催にあたって、市施設の使用・学校や一般への広報	